

初対面のビグレ編集部全員が持ちいい元気の挨拶。まだあどけなさはあるが誠実さが伝わる。ビグレ編集部のほうが緊張気味。

天気も快晴で同行取材も楽しみなようになってきた。スタート地点まで各自移動車両に乗り合わせ学校を出発。スタート地点までおよそ30分。

スタート地点まで車内では自己紹介をはじめ、これから登る小檜山の話や登山の話で盛り上がる。夏休み中とあって宿題の話や、高校生らしい話がとてすがすがしく新鮮に思えた。

スタート地点到着後、顧問の松田先生をはじめ、登山部の6人も手際よく着替えを行い小檜山の山頂を目指す。いよいよスタート開始。よろしくお願ひしますの掛け声のもと、ビグレ編集部とカメラマンを含め9人で登り始める。

ビグレ編集部同行取材もあって、初級者コースの焼山ルートを進む。出発後すぐにお地蔵さまがお見送り。「小檜地蔵」といい、「手が授けられない人が誰にも見られないように1体持ち帰り折り授けられた2体にして元に戻すまっつておく」と伝わる。

緑に囲まれた山道を歩みながら松田先生を先頭に1列に歩く。すがすがしい空気に癒されながら、登山部の会話が弾む。アップダウンは緩やかだが、慣れないせいかそれでも汗が噴出してくる。途中「的」の石と言われる巨石がある。日本神話の英雄日本武尊(やまとたけるのみこと)が薄い霧の石を矢で射たのが由来と言われている。



部長 横田 西香さん 2年生

小澤 結人くん 2年生

山梨百名山の山頂へ

山梨高校登山部と登る「小檜山」

学校創立98周年、大正6年山梨県立実科高等女学校として生まれ、現在まで2万8千人を超える卒業生を輩出した校訓「至誠無怠」の言葉は「常に誠実であることを目指して自分を磨く」という人としてあるべき姿を示している。人材育成と、生徒一人ひとりを自立した人間として育てる教育を行っている。部活動にも力を入れ、昨年度は操部、吹奏楽部、書道部、放送部、写真部が関東大会出場や全国大会で活躍。この他、山梨県の各競技大会や各種。生徒たちが校訓どおり自己を鍛え、自分を磨くための努力を惜しまない姿勢が確実に成果という実を結んで山梨高等学校の登山部と一緒に小檜山の頂を目指す。

伝統ある山梨県立山梨高等学校。この理念のもと、徳・体・心のバランスの取れたハンドボール部、バドミントン部、陸上部、体コンクールにおいても着実に成果を収めている。保護者と地域に密着した伝統校。そんな



山頂で嬉しさを表現した1枚



部員達の汗の量さが伺える



休憩もたのしめる部員達



今回の山梨高校登山部メンバーを紹介。部長横田西香さん2年生、小澤結人くん2年生、池田岡谷くん2年生、早川泰雅くん2年生、野中彰彰さん1年生、篠原弘太郎くん1年生の6人。部長の横田西香さんは北岳をはじめ様々な山に登った経験者。「楽しく部員と山に挑戦したい」と話してくれた。メンバーのムードメーカー小澤結人くんは、「山は自分を磨ける。これからはみんなと山に登りたい」と輝く笑顔を見せてくれた。「地元の子ばらしい山に登り、見て、触れて、感じてほしい」と話してくれたのは顧問の松田先生。

みんな山が本当に好きなんだと感じた同行取材でした。翌日から更に2泊3日の登山を予定しているというから驚きだ。ビグレ3周年号で今年も山梨百名山を制覇。天気に恵まれ怪我無く下山でき、また機会があれば山梨高校登山部のメンバーと登りたいと思いつきながら元気な「お疲れ様でした」の挨拶のあと学校を後にした。

これからも「至誠無怠」を胸に、未来に向かって頑張ってもらいたい。

山頂でみせる輝く笑顔
すばらしいロケーションで今後の抱負

山野草や花にも囲まれながら進むとビグレ編集部が遅れだす。小休憩を挟み松田先生に歩くスピードを何うと「今日はゆっくりです」と一言。汗だくのビグレ編集部は言葉少なめだが、登山部メンバーはなれていていかに余裕の表情。生徒から生垣を買い体力を復活させる。ありがたい配慮の後更に山頂を目指す。

登ること約1時間30分山頂に到着。景色や達成感でテンションも上がり一望。残念ながら富士山は見えなかったが、ロケーションを羨しみ休憩後撮影開始。

生徒の明るく元気な笑顔が表紙の1枚。疲れた表情も見せず30分ほど取材に応じてくれた。

山梨高校登山部と出発
伝統校の理念受け継ぐ挨拶

8月某日。猛暑日予想される日に山梨高校登山部と早朝学校で合流。登山部顧問の松田先生と共に6人の登山部のみなさん。

山梨百名山「小檜山」
富士山や甲府盆地が一望

標高1713m。奇岩や怪石が至る所にあり、山頂からは富士山や奥秩父の山々、南アルプス、木曾の御嶽山も望むことができる。

山梨百名山のひとつで、県外からの登山者にも人気がある。

鎌倉時代から室町時代にかけて高僧夢窓国師の修行の地と言われている。黎明岩(れいめいわ)、羅漢岩、薬石門、白雲の滝、石仙など信仰の山にふさわしい見どころが数多くある。

ミズナラなど樹の木が多いことから小檜山と呼ばれるようになったと一般には言われているが、夢窓国師が名づけたとされる小檜山(ごんれい)を伏せたような姿からごんば山という別称も持つ。

錫杖ヶ原(しゃくじょうがはら)は山頂北側に位置し、山野草も多くレンゲツツジの群集も6月中旬が見頃。紅葉は10月下旬がお勧め。

山頂を目指すルートは3つに分かれる。初級者向けコースと言われる焼山ルートは乙女高原方面からスタート。比較的難易度も低く、往復で約3時間ほどで戻ってこられるルート。

中級者向けは母恋し父恋しルート。保健農園ホタルフ山からスタートし、往復で約6時間。母恋し路と奇石の連なる大沢山を通る父恋し路を進む。登山が慣れない方はかなりの疲労感が出る。

妙見山ルートは中上級者向け。往復で約8時間30分ほどかかる。鼓川温泉からアップダウンの続くロングコース。体力はもちろん技術も必要になってくる。万全な体制で臨みたい。